

平成30年9月の
国内向け／輸出向け出荷の動向
図表集

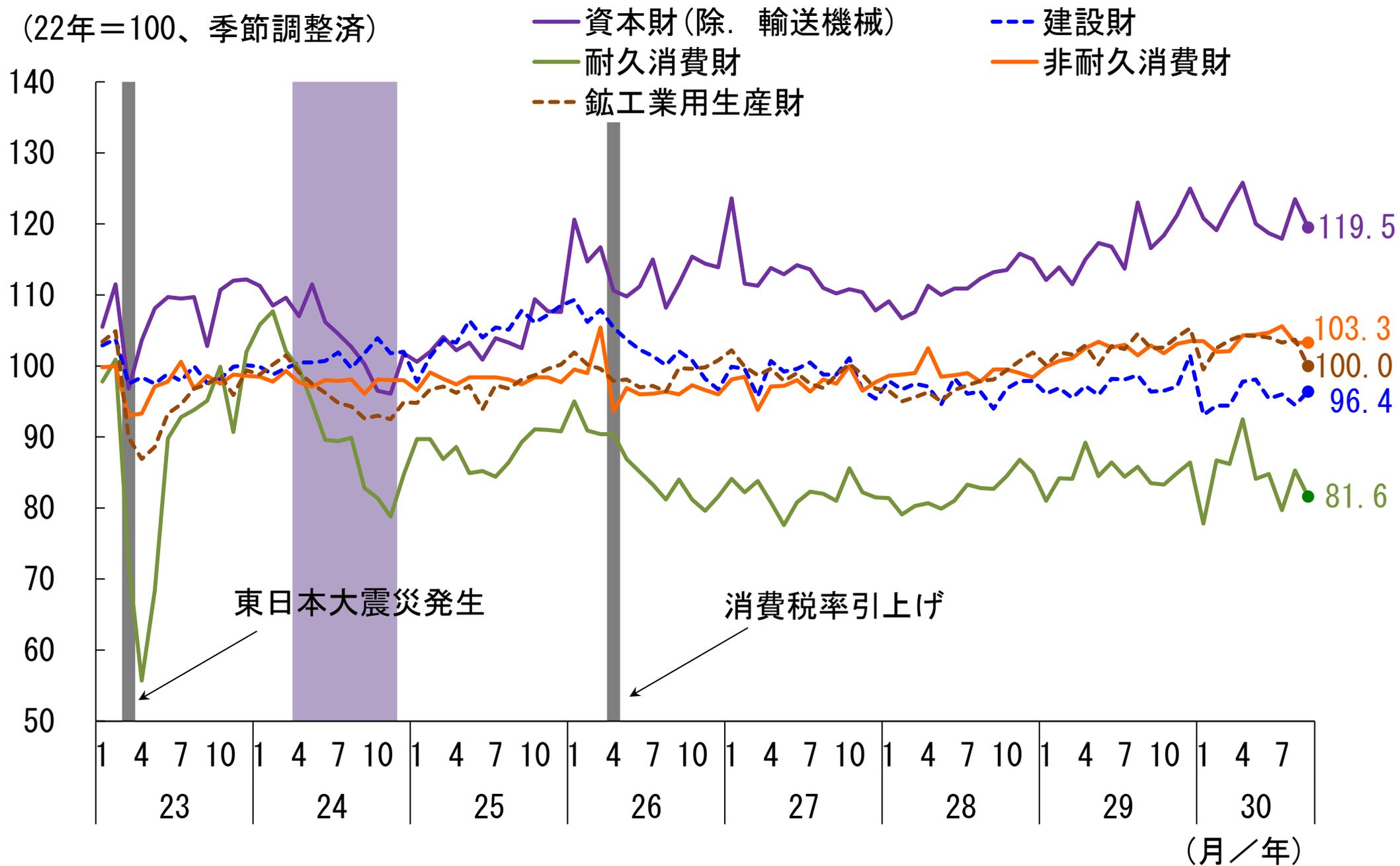
平成30年11月7日

経済解析室

URL : <http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/utiwake/result-1.html>

財別出荷指数の動向

(22年=100、季節調整済)



(注) 紫色のシャド一部分は、景気後退局面。

平成30年9月の鉱工業出荷内訳表の状況

出荷・国内向け出荷・輸出向け出荷

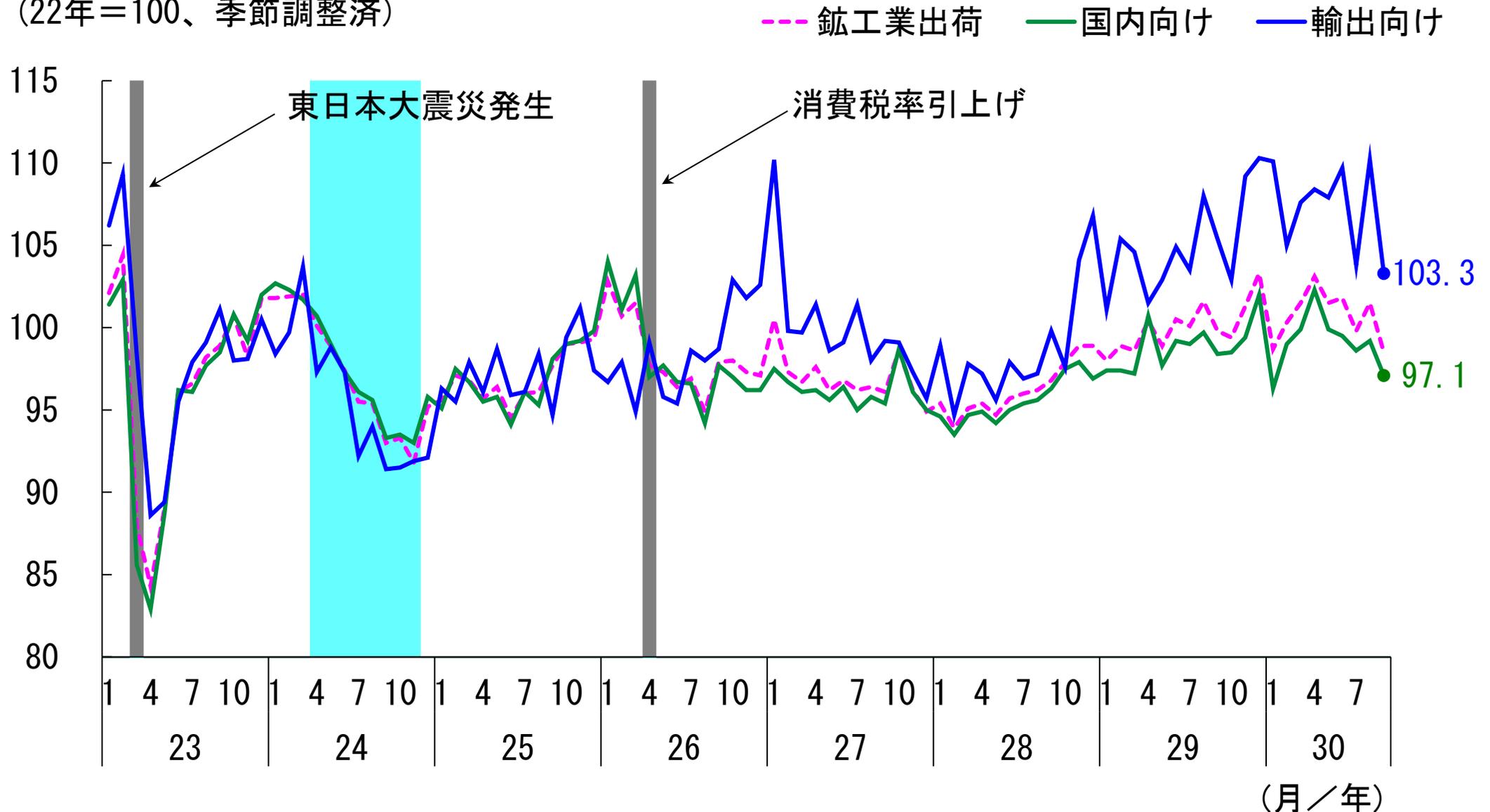
月次	出 荷	輸 出	国 内
季調済指数 前月比	98.5 -3.0%	103.3 -6.3%	97.1 -2.1%
指数水準	H29.1 98.0以来 ①H21.2 79.2 ②H21.3 79.7 ③H21.4 80.7	H29.10 102.9以来 ①H21.2 67.0 ②H21.3 69.0 ③H21.1 70.9	H30.1 96.3以来 ①H21.2 81.9 ②H21.3 82.1 ③H21.4 82.7
前月比の動き	2か月ぶりー (H30.7以来)	2か月ぶりー (H30.7以来)	2か月ぶりー (H30.7以来)
前月比幅	H30.1 -4.5%以来 ①H23.3 -15.7% ②H21.1 -9.5% ③H20.12 -7.1%	H27.2 -9.4%以来 ①H20.11 -12.8% ②H20.12 -11.7% ③H21.1 -11.0%	H30.5 -2.3%以来 ①H23.3 -16.8% ②H21.1 -9.5% ③H26.4 -6.0%

(注) ①～③は22年基準における最小値から下位3位までの数値

国内向け／輸出向け出荷の動向

・平成30年9月の鉱工業出荷を国内向け／輸出向け別にみると、国内向けは97.1(前月比-2.1%)と2か月ぶりの低下、輸出向けは103.3(前月比-6.3%)と2か月ぶりの低下。

(22年=100、季節調整済)

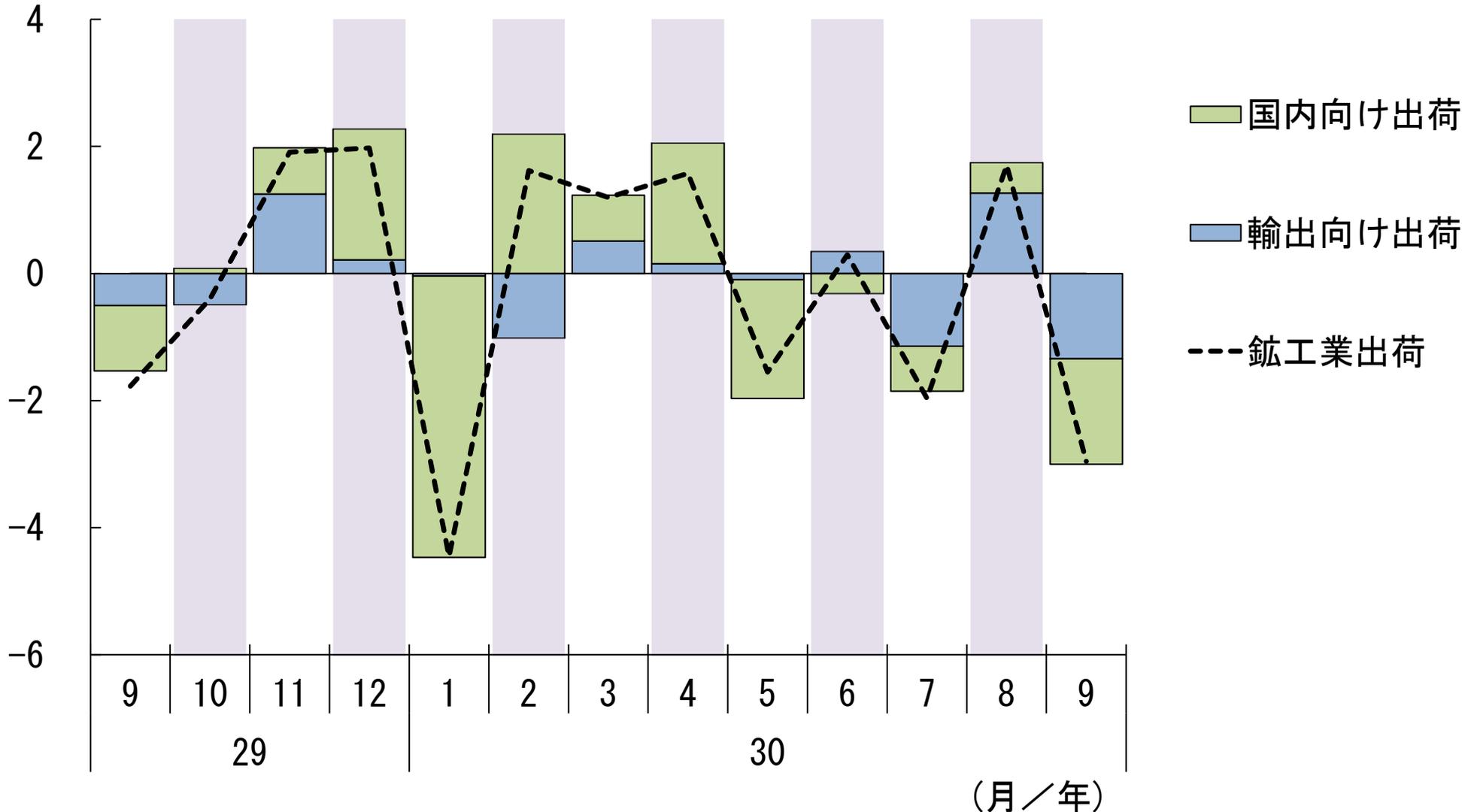


(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

鋳工業出荷前月比 国内向け／輸出向け別の影響度合い

- 平成30年9月の鋳工業出荷は国内向け、輸出向けともに低下したため、前月比-3.0%の低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

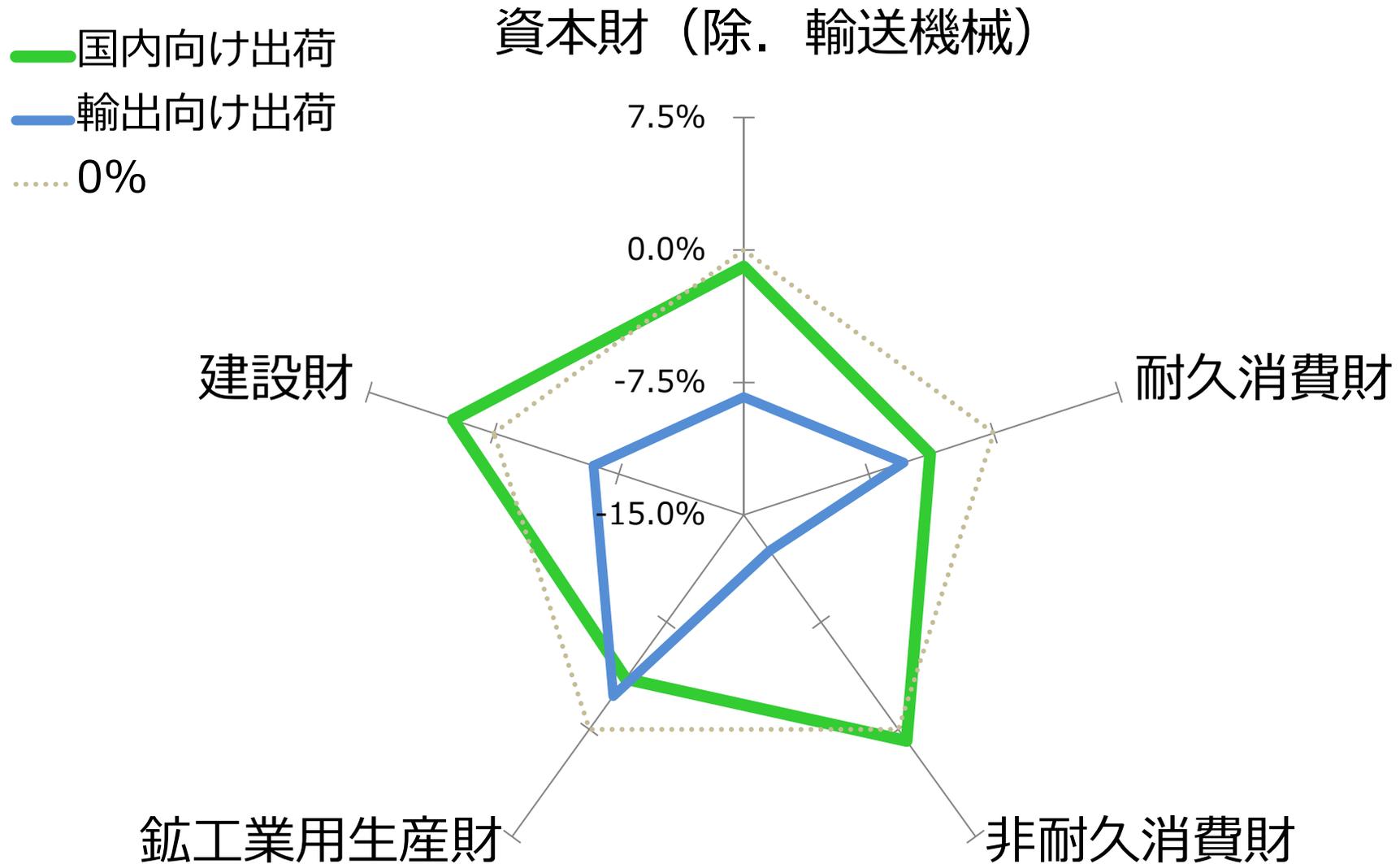


主要4業種、財の出荷前月比 国内／輸出向け出荷の影響度合い

業種別分類	出荷前月比 (%)	国内寄与度 (%ポイント)	輸出寄与度 (%ポイント)
輸送機械工業	-4.7	-3.73	-0.86
はん用・生産用・ 業務用機械工業	-3.0	-0.34	-2.36
電子部品・デバイス工業	-4.5	-0.43	-3.30
化学工業(除. 医薬品)	-3.2	-3.30	0.42

財別分類	出荷前月比 (%)	国内寄与度 (%ポイント)	輸出寄与度 (%ポイント)
鉱工業用生産財	-3.6	-2.61	-0.60
資本財(除. 輸送機械)	-3.2	-0.70	-2.12
建設財	2.0	2.25	-0.45
耐久消費財	-4.3	-3.02	-1.11
耐久消費財のうち 乗用車・二輪車	-4.1	-2.17	-1.49
非耐久消費財	0.0	0.74	-0.88

国内向け／輸出向け財別出荷指数前月比比較(平成30年9月)

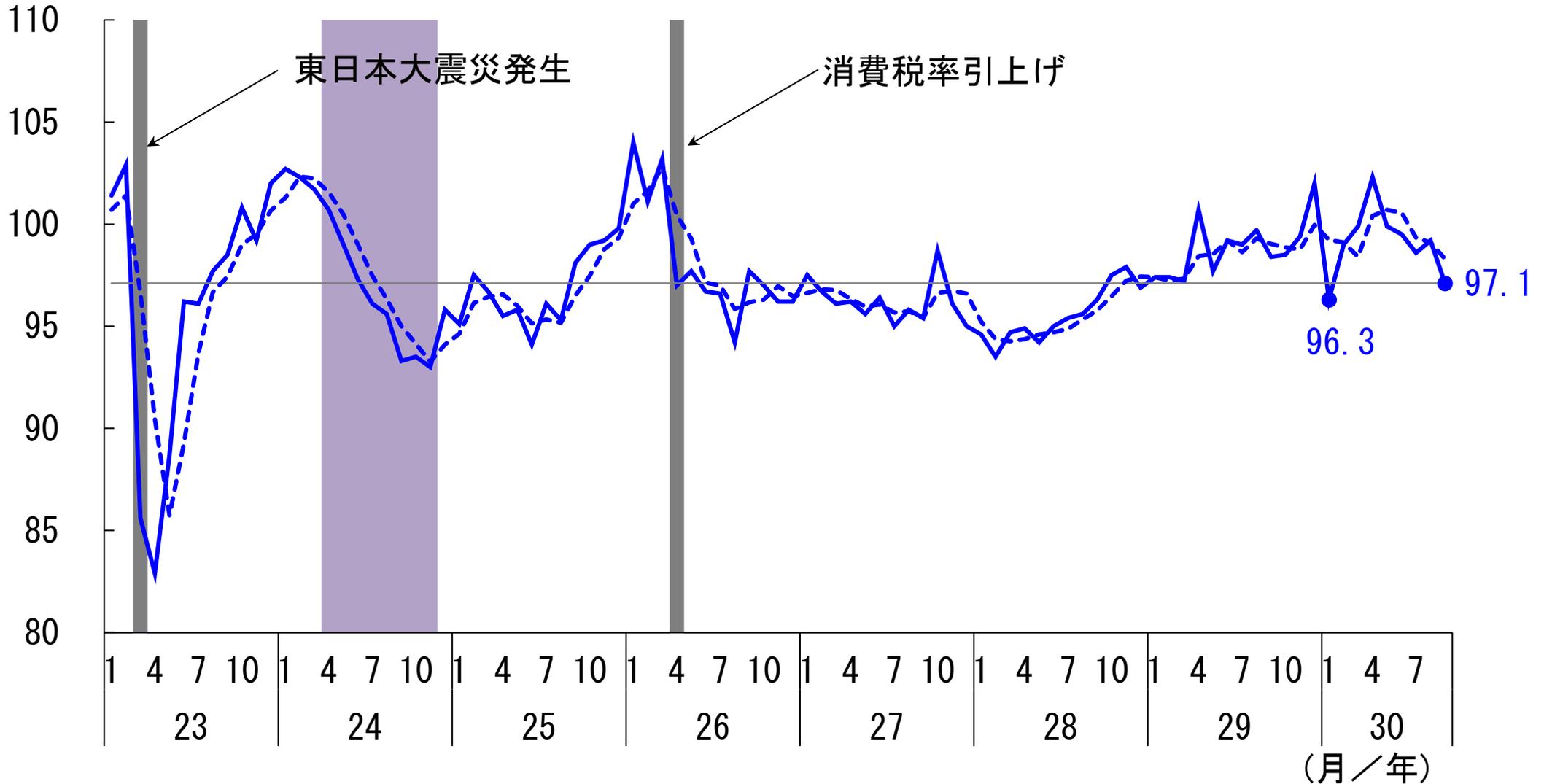


国内向け出荷指数の動向

- ・平成30年9月の国内向け出荷指数は97.1（前月比-2.1%）と2か月ぶりの低下。
- ・平成30年1月の96.3以来の指数水準。

（22年＝100、季節調整済）

— 国内向け出荷指数 - - - 3か月後方移動平均

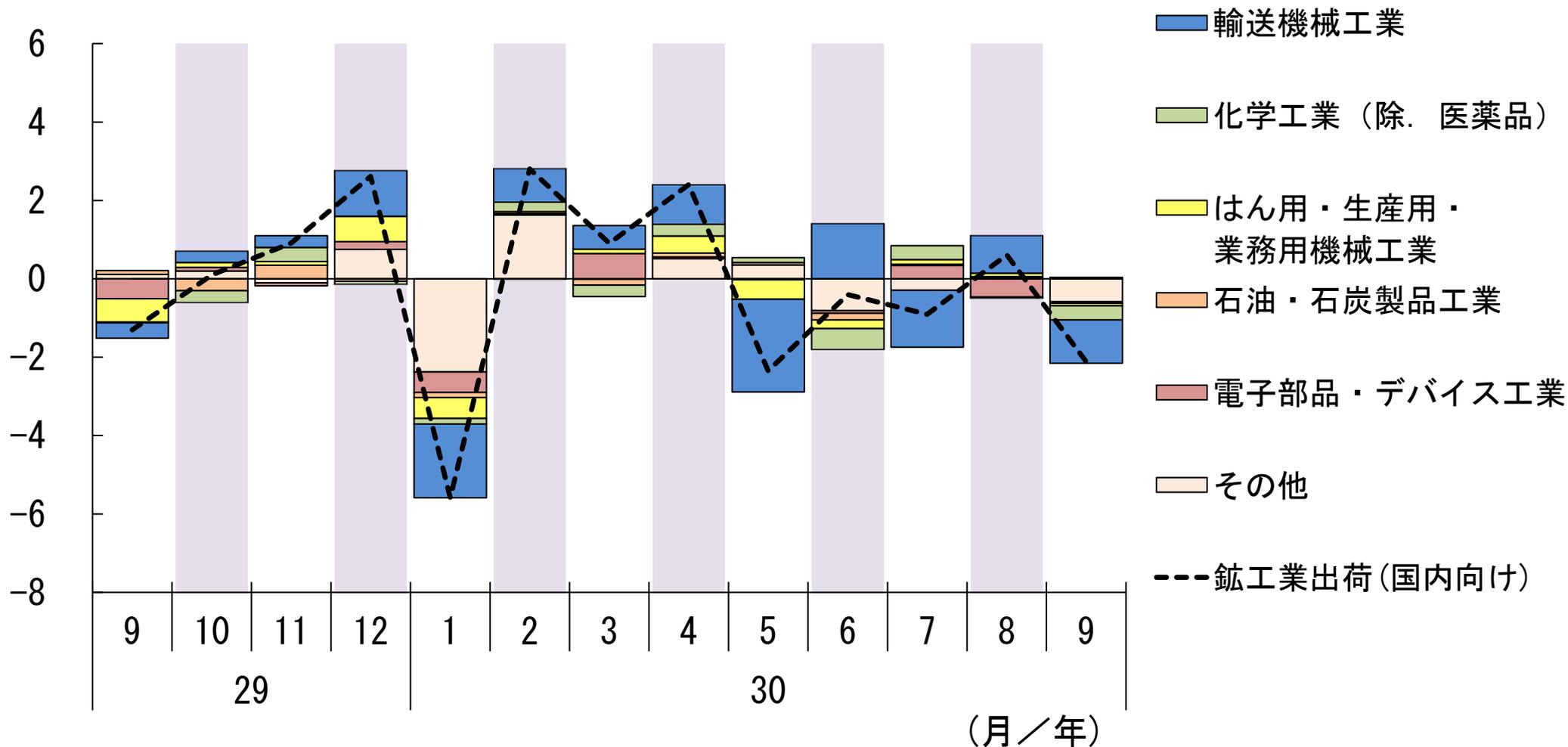


（注）紫色のシャドー部分は景気後退局面。

国内向け出荷前月比 業種別の影響度合い

- 平成30年9月の国内向け出荷を主要業種別にみると、石油・石炭製品工業が上昇したものの、輸送機械工業などが低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



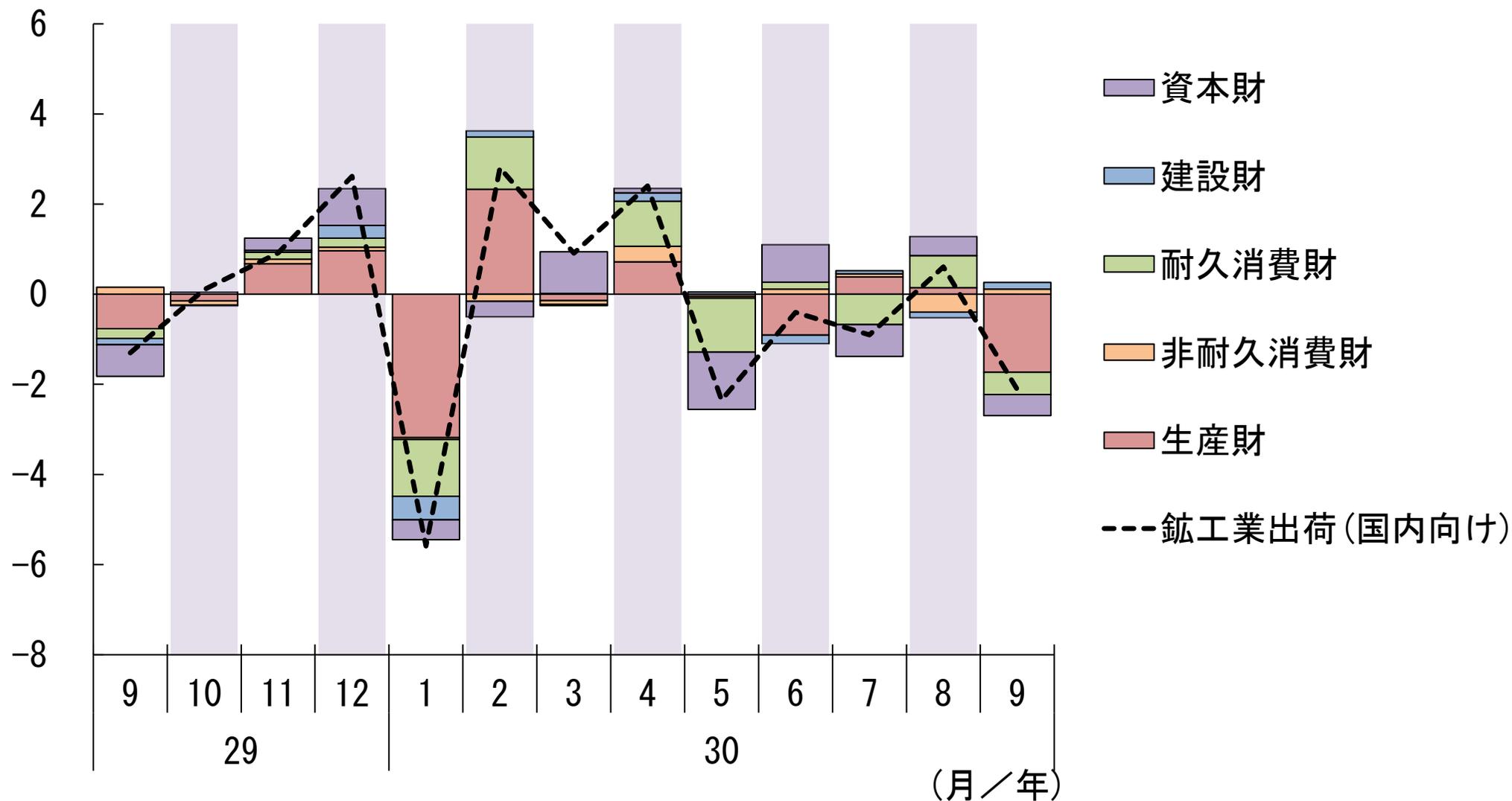
(注) 主要業種とは、国内向け出荷(ウエイト8028.51)のうち、ウエイトが大きい5業種を選定。

具体的には、輸送機械工業(国内向け、ウエイト1658.38)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同796.12)、化学工業(除. 医薬品)(同、同717.06)、石油・石炭製品工業(同、同574.89)、電子部品・デバイス工業(同、同457.59)。

国内向け出荷前月比 財別の影響度合い

- 平成30年9月の国内向け出荷を財別にみると、建設財などが上昇したものの、生産財などが低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



平成30年9月の国内向け出荷前月比 財別・業種別の影響度合い

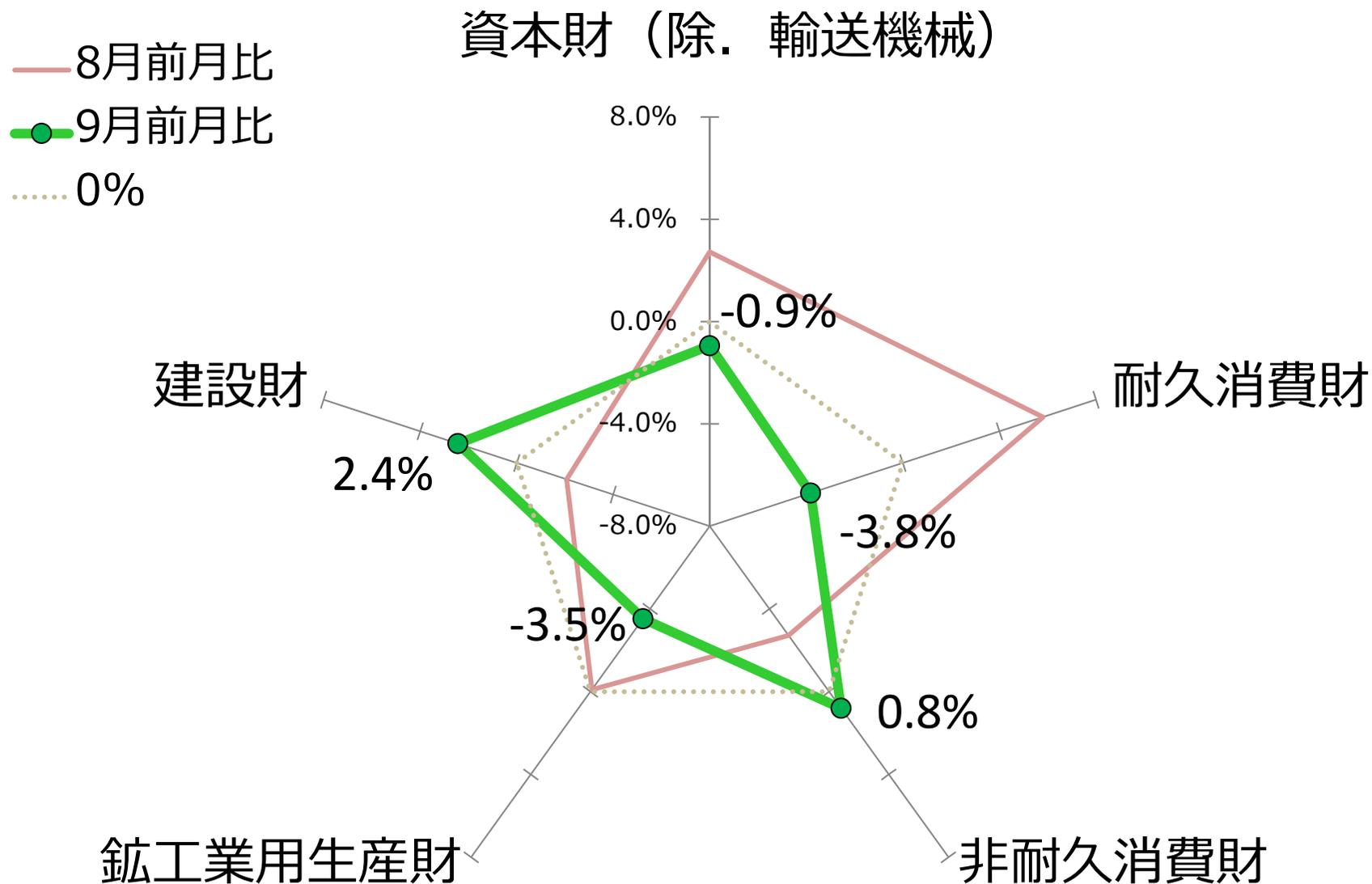
財別分類	前月比(%)	寄与率(%)
鉱工業	-2.1	-56.2
鉱工業用生産財	-3.5	-40.6
鉄鋼業	-9.2	-13.1
輸送機械工業	-5.9	-10.9
耐久消費財	-3.8	-13.1
輸送機械工業	-3.1	-8.0
情報通信機械工業	-9.1	-3.3
資本財（除．輸送機械）	-0.9	-3.4
非鉄金属工業	-14.3	-1.8
はん用・生産用・業務用機械工業	-0.6	-1.6
その他用生産財	0.3	0.4
化学工業(※)	210.6	0.4
プラスチック製品工業	2.8	0.3
非耐久消費財	0.8	3.0
化学工業(※)	1.8	2.4
電気機械工業	11.8	0.1
建設財	2.4	3.9
金属製品工業	6.8	4.5
はん用・生産用・業務用機械工業	18.1	0.5

寄与率：出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、財別・業種別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

(※)医薬品については、実績データではなく、暫定的な推計値を投入して、寄与を計算している。

(注)試算値。

国内向け財別出荷指数前月比の比較 (平成30年8月、9月)

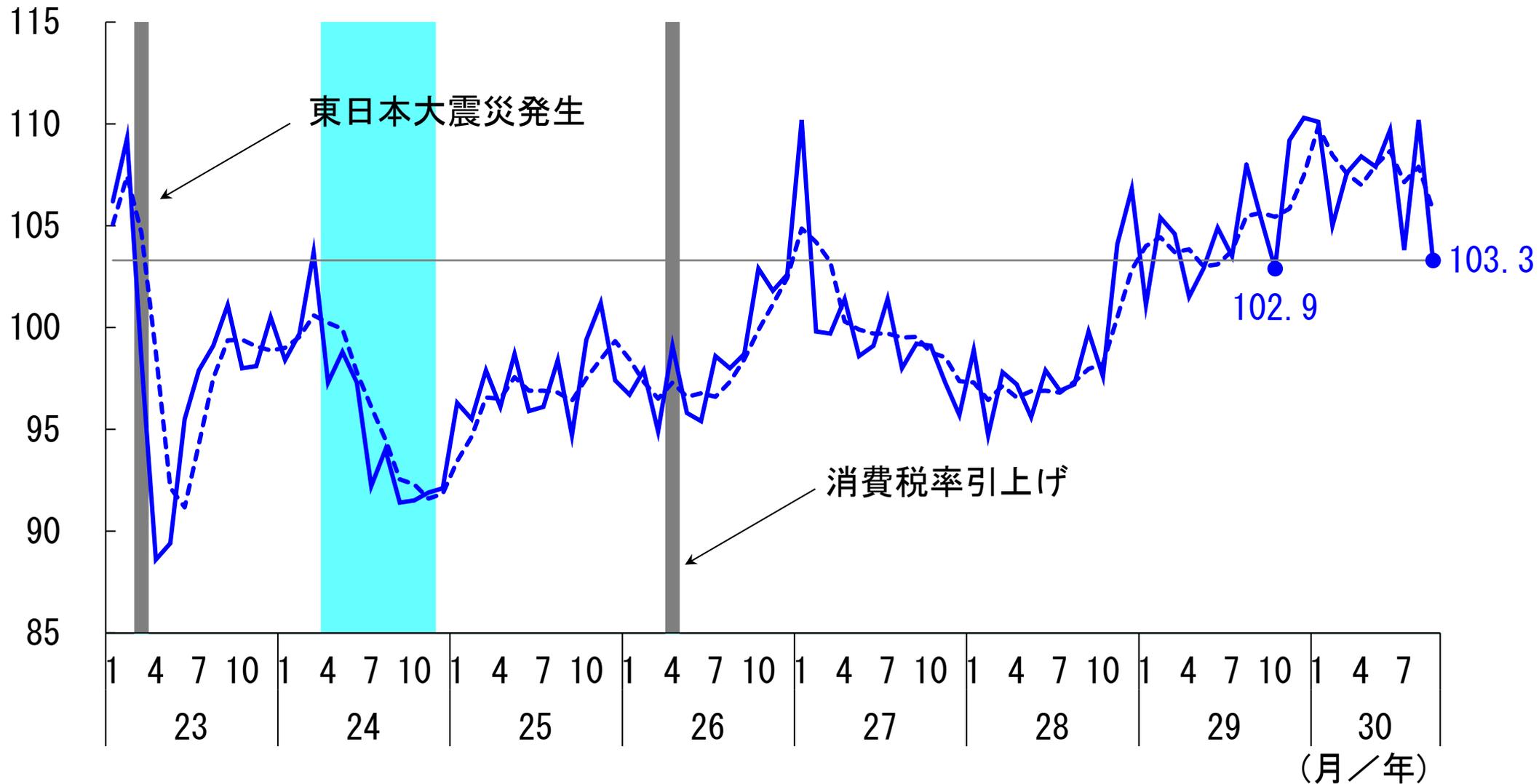


輸出向け出荷指数の動向

- 平成30年9月の輸出向け出荷指数は103.3(前月比-6.3%)と2か月ぶりの低下。
- 平成29年10月の102.9以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)

— 輸出向け出荷指数 - - - 3か月後方移動平均

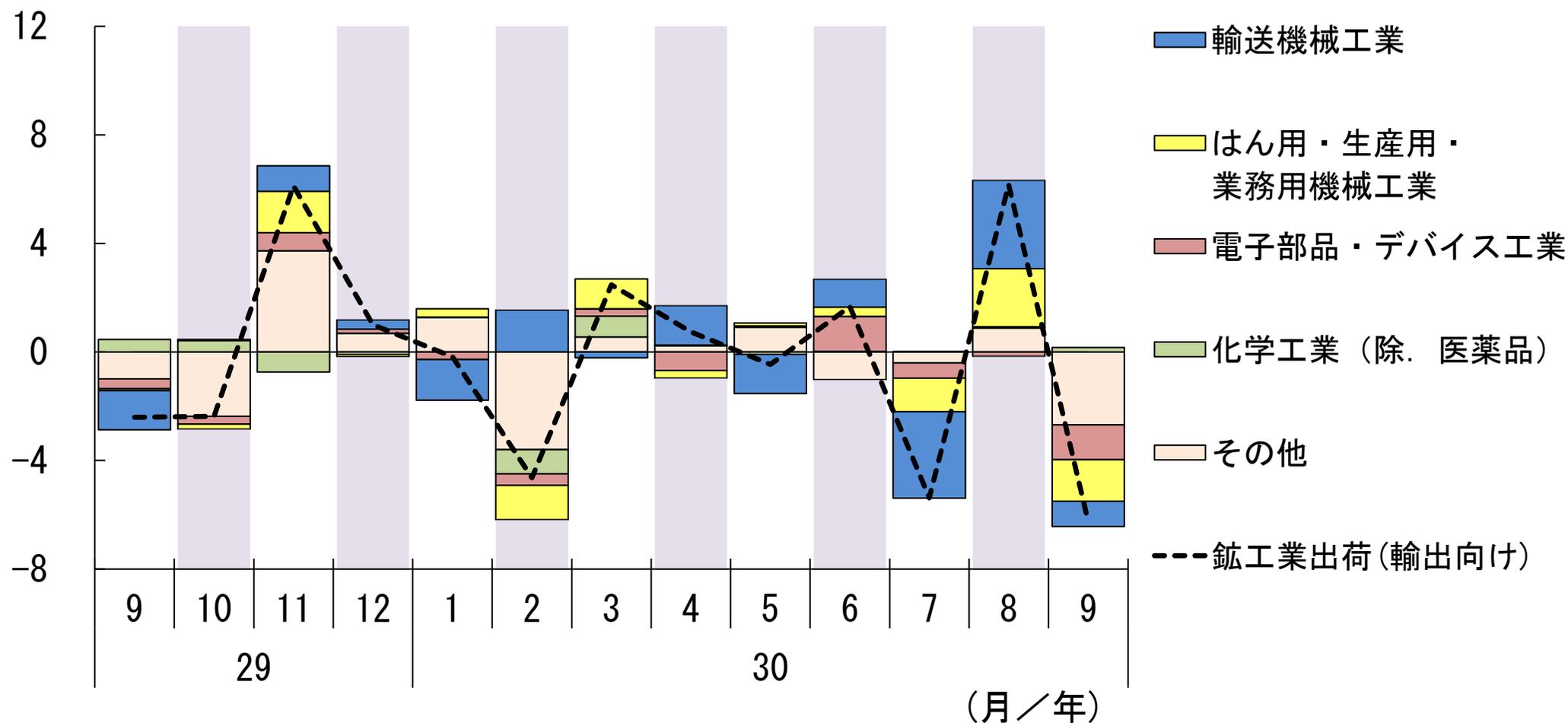


(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

輸出向け出荷前月比 業種別の影響度合い

- 平成30年9月の輸出向け出荷を主要業種別にみると、化学工業（除. 医薬品）が上昇したものの、はん用・生産用・業務用機械工業などが低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



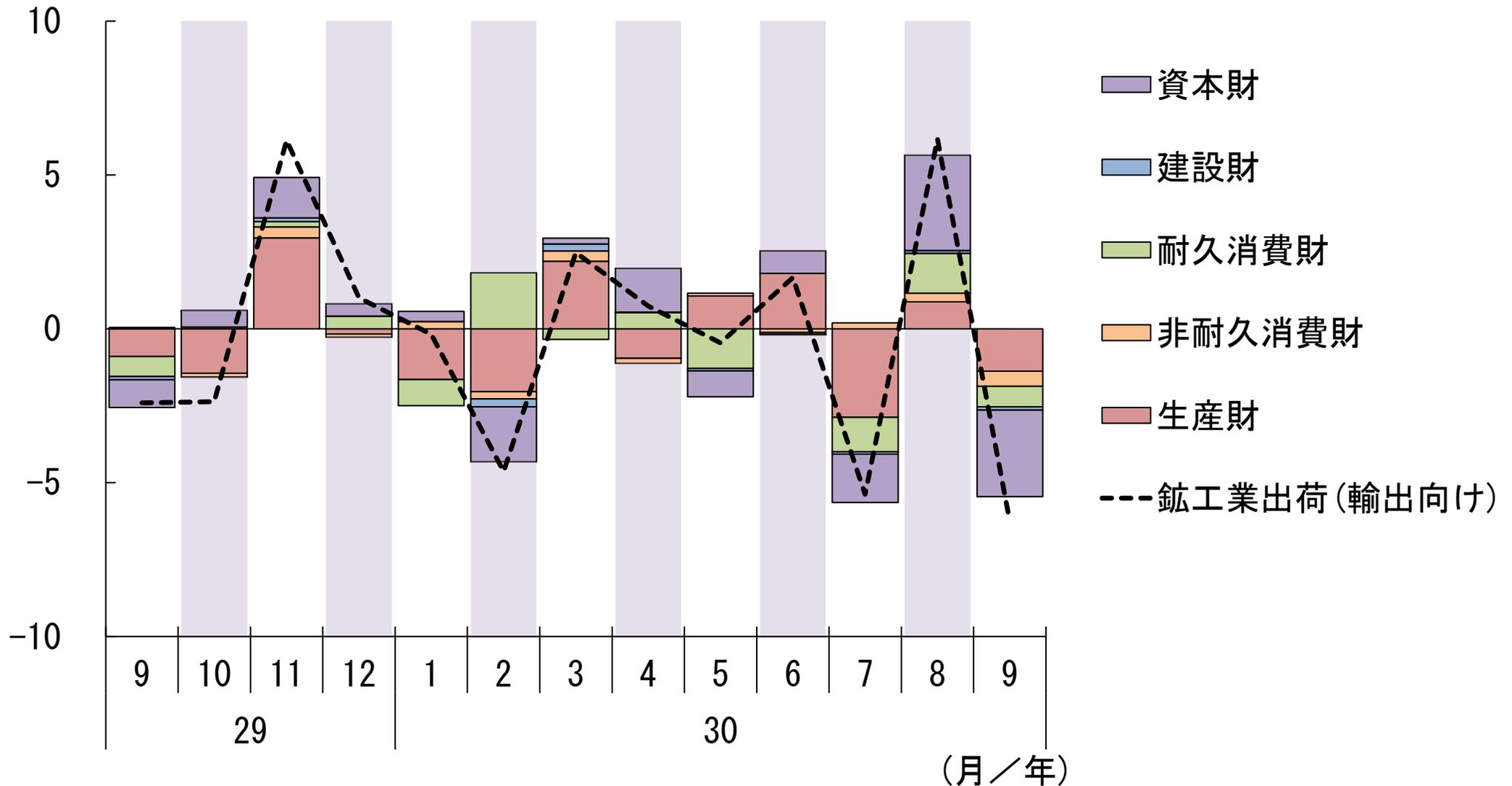
(注)主要業種とは、輸出向け出荷(ウエイト1971.49)のうち、ウエイトが大きい業種(上位4業種)を選定。

具体的には、輸送機械工業(輸出向け、ウエイト560.52)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同289.48)、電子部品・デバイス工業(同、同253.51)、化学工業(除. 医薬品)(同、同166.14)の4業種。

輸出向け出荷前月比 財別の影響度合い

- 平成30年9月の輸出向け出荷を財別にみると、資本財などが低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



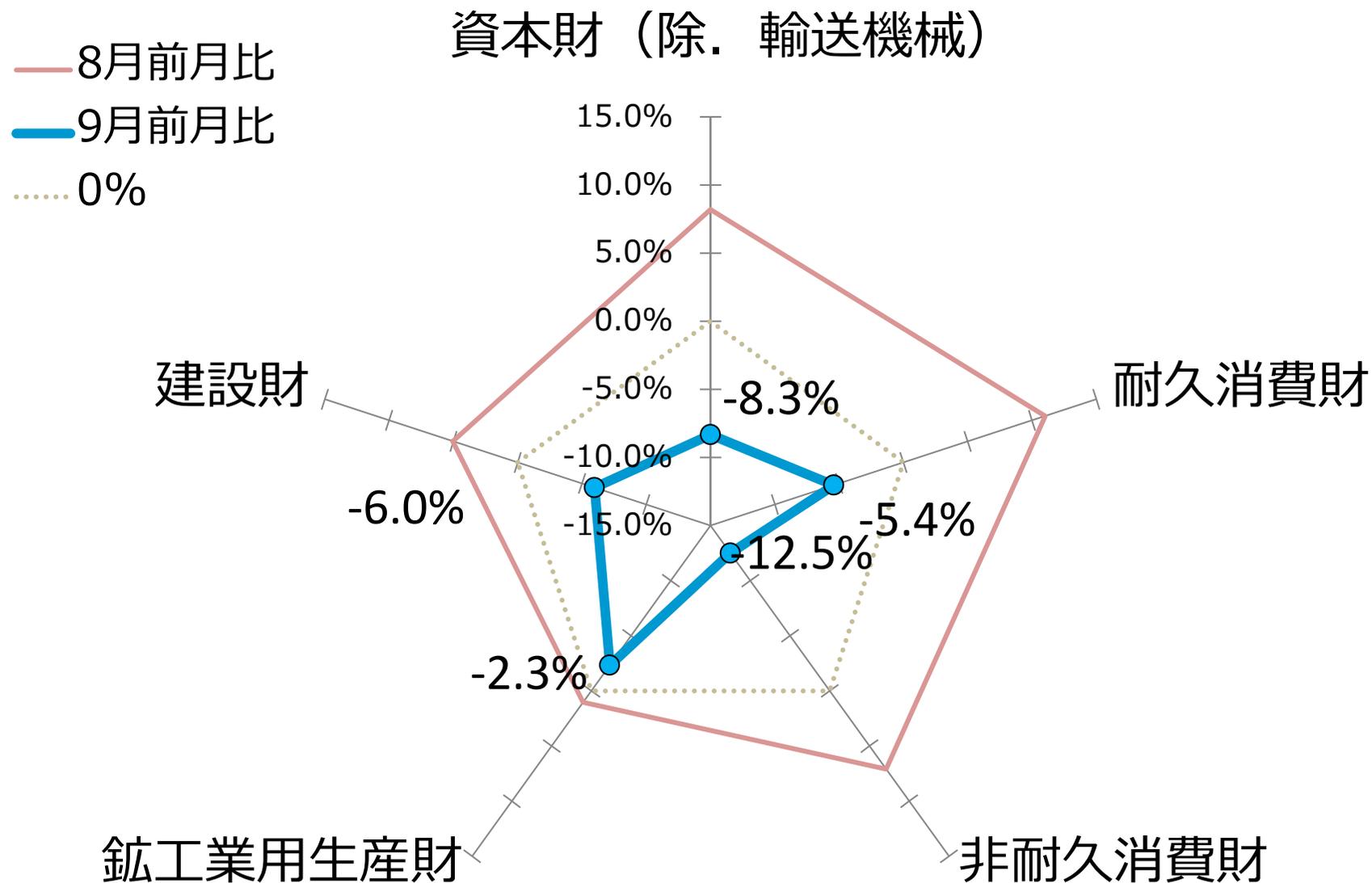
平成30年9月の輸出向け出荷前月比 財別・業種別の影響度合い

財別分類		前月比(%)	寄与率(%)
鉱工業		-6.3	-45.3
資本財（除．輸送機械）		-8.3	-10.3
	はん用・生産用・業務用機械工業	-8.1	-7.8
	電気機械工業	-10.3	-2.2
鉱工業用生産財		-2.3	-9.4
	電子部品・デバイス工業	-11.3	-9.3
	はん用・生産用・業務用機械工業	-8.7	-3.3
耐久消費財		-5.4	-4.8
	輸送機械工業	-6.7	-5.0
	情報通信機械工業	-8.3	-0.5
非耐久消費財		-12.5	-3.6
	化学工業	-19.6	-3.6
	その他工業	-11.5	-0.3
建設財		-6.0	-0.8
	鉄鋼業	-33.1	-0.8
	化学工業	-10.8	-0.1
その他用生産財		-0.7	-0.2
	その他工業	-6.2	-0.3
	化学工業	-6.3	-0.2

寄与率：出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、財別・業種別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

(注)試算値。

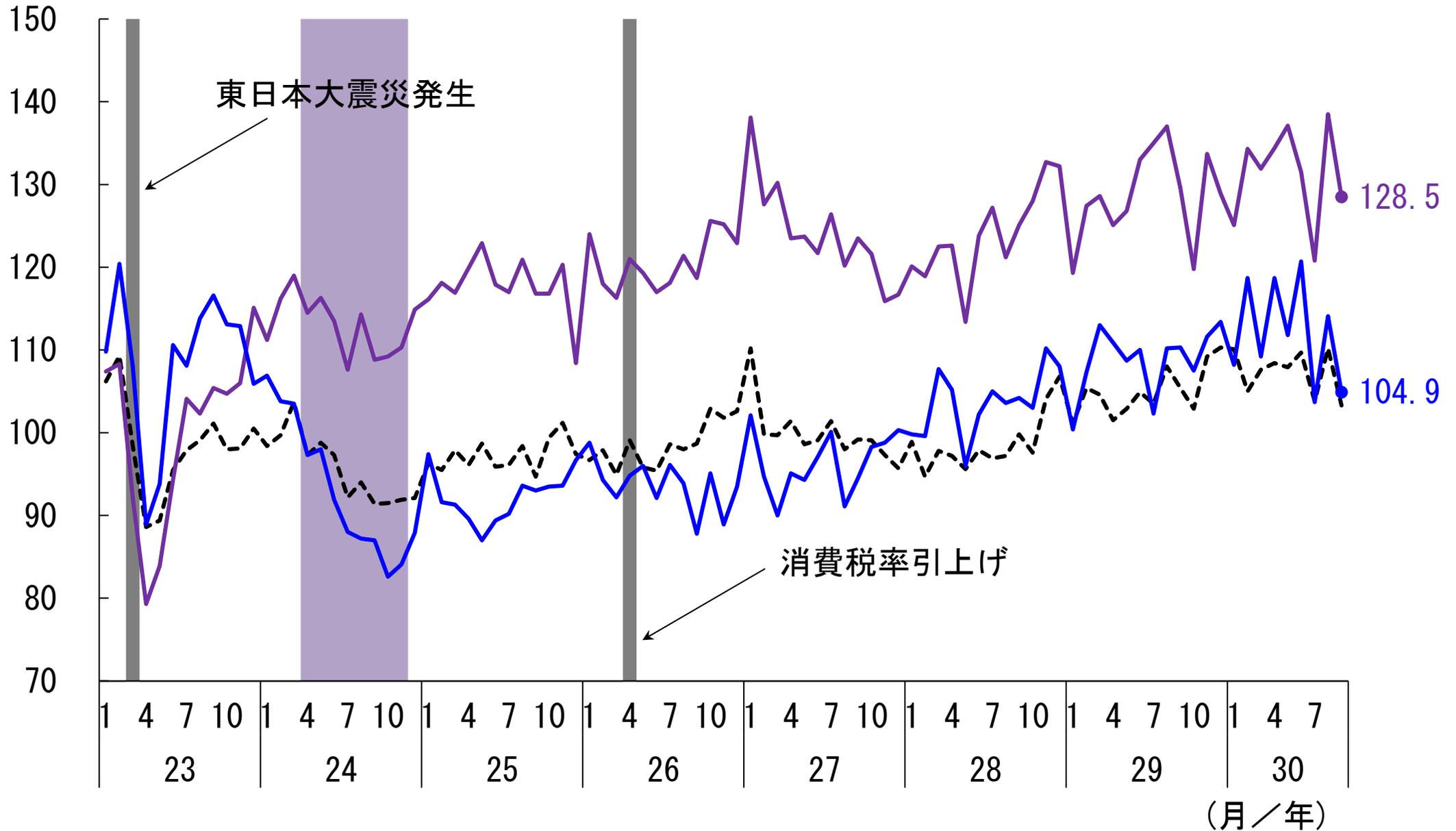
輸出向け財別出荷指数前月比の比較 (平成30年8月、9月)



欧米向け出荷指数の動向

(22年=100、季節調整済)

--- 輸出向け出荷 — 米国向け — 欧州向け

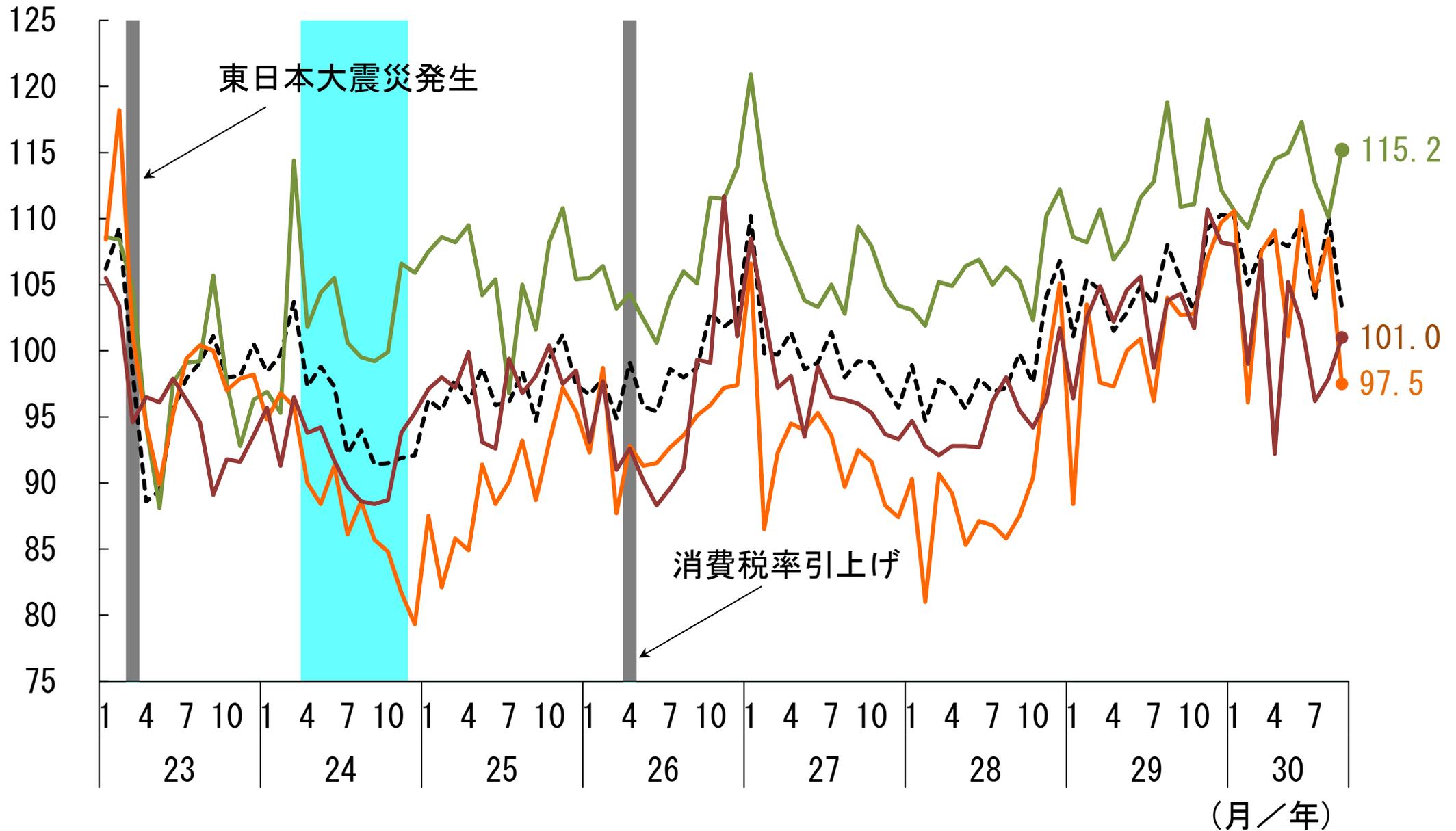


(注) 紫色のシャド一部分は、景気後退局面。

アジア向け出荷指数の動向

(22年=100、季節調整済)

--- 輸出向け出荷 — ASEAN向け — 中国向け — 韓国向け

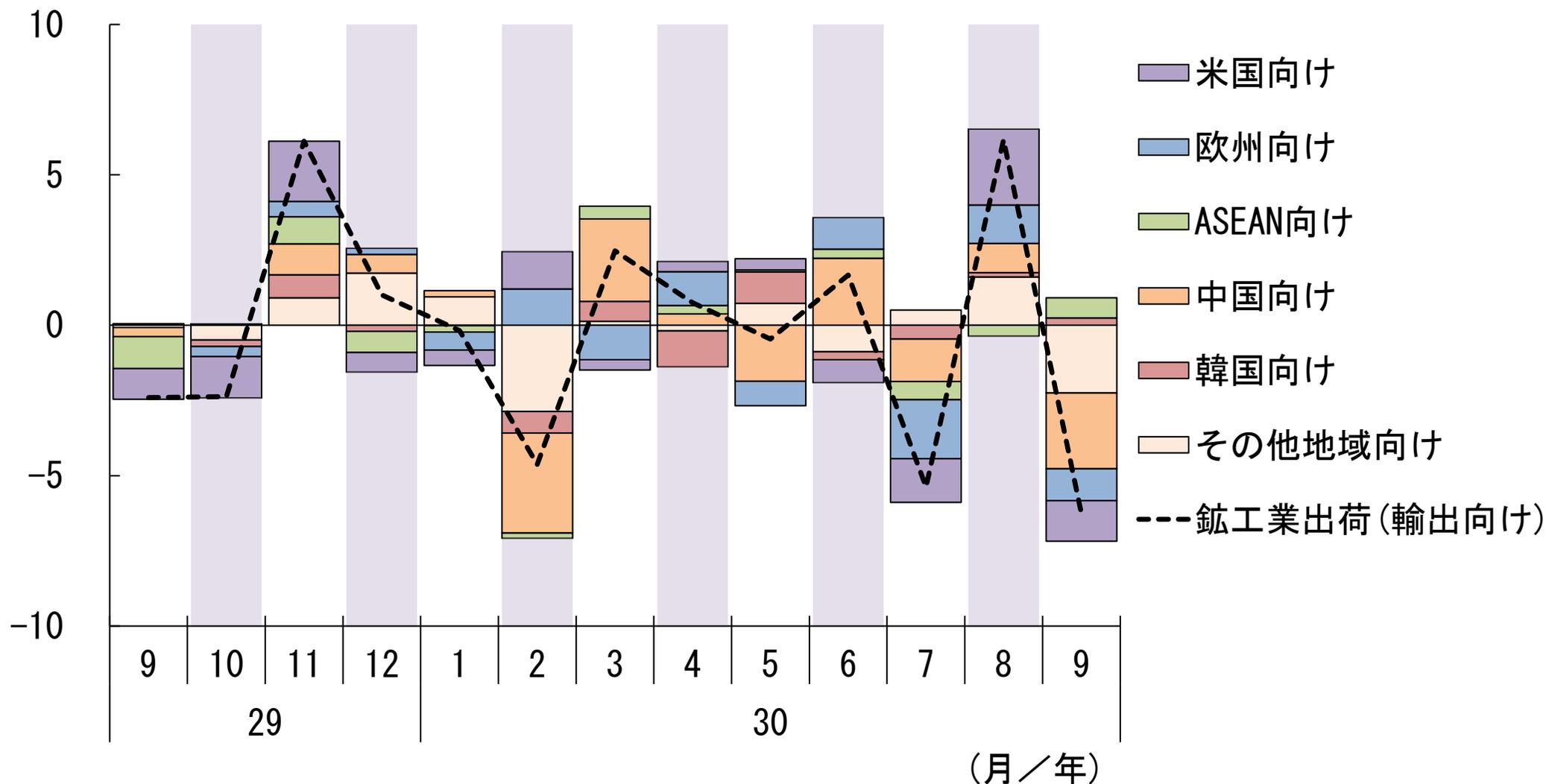


(注) 水色のシャド一部分は、景気後退局面。

輸出向け出荷前月比 地域別の影響度合い

- 平成30年9月の輸出向け出荷を、地域別にみると、ASEAN向けなどが上昇したものの、中国向けなどが低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



(注) 試算値。

主要4業種、財の出荷前月比 米国／中国向け出荷の影響度合い

業種別分類	輸出向け出荷 前月比 (%)	米国向け 寄与度 (%ポイント)	中国向け 寄与度 (%ポイント)
輸送機械工業	-3.3	2.58	5.39
はん用・生産用・ 業務用機械工業	-8.2	-4.54	-34.49
電子部品・デバイス工業	-11.2	-5.12	-42.82
化学工業(除. 医薬品)	2.0	-2.95	12.66

財別分類	輸出向け出荷 前月比 (%)	米国向け 寄与度 (%ポイント)	中国向け 寄与度 (%ポイント)
鉱工業用生産財	-2.3	-8.96	-7.65
資本財(除. 輸送機械)	-8.3	-5.53	-36.41
建設財	-6.0	5.52	-14.97
耐久消費財	-5.4	3.06	-0.30
耐久消費財のうち 乗用車・二輪車	-6.8	4.29	-0.80
非耐久消費財	-12.5	-40.23	2.46

(注) 米国と中国以外の地域への輸出も相当量あることから、米国向け出荷と中国向け出荷の寄与度を合計しても輸出向け出荷の前月比になるわけではない。
それぞれの寄与度は、輸出向け出荷全体に対する米国向け出荷と中国向け出荷の影響度合いの目安として示している。

平成30年9月の鉱工業総供給表の状況

総供給・国産品供給・輸入品供給

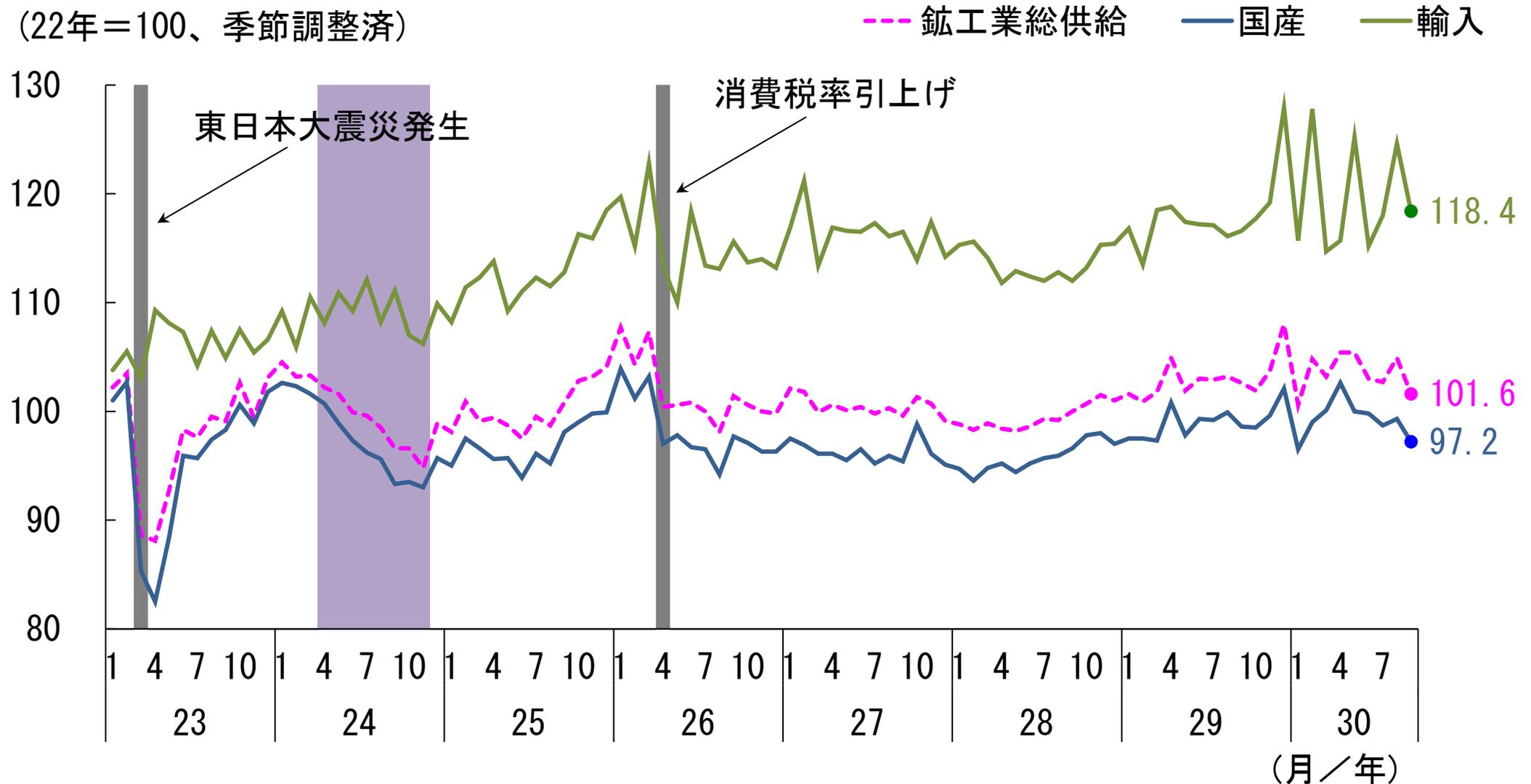
月次	総供給	国産	輸入
季調済指数 前月比	101.6 -3.1%	97.2 -2.1%	118.4 -5.0%
指数水準	H30.1 100.6以来 ①H21.2 82.4 ②H21.3 82.5 ③H21.4 84.1	H30.1 96.5以来 ①H21.2, 3 82.1 ②H23.4 82.5 ③H21.4 82.6	H30.7 118.0以来 ①H21.2 81.7 ②H21.5 82.3 ③H21.3 85.2
前月比の動き	2か月ぶりー (H30.7以来)	2か月ぶりー (H30.7以来)	3か月ぶりー (H30.6以来)
前月比幅	H30.1 -6.9%以来 ①H23.3 -14.4% ②H21.1 -7.3% ③H30.1 -6.9%	H30.5 -2.5%以来 ①H23.3 -16.9% ②H21.1 -9.3% ③H20.12, H26.4 -6.0%	H30.6 -8.0%以来 ①H21.2 -11.9% ②H30.3 -10.3% ③H30.1 -9.5%

(注) ①～③は22年基準における最小値から下位3位までの数値

鉍工業総供給指数の動向

- ・平成30年9月の鉍工業総供給指数は101.6(前月比-3.1%)と2か月ぶりの低下。
- ・内訳をみると、国産は97.2(前月比-2.1%)と2か月ぶりの低下、輸入は118.4(前月比-5.0%)と3か月ぶりの低下。

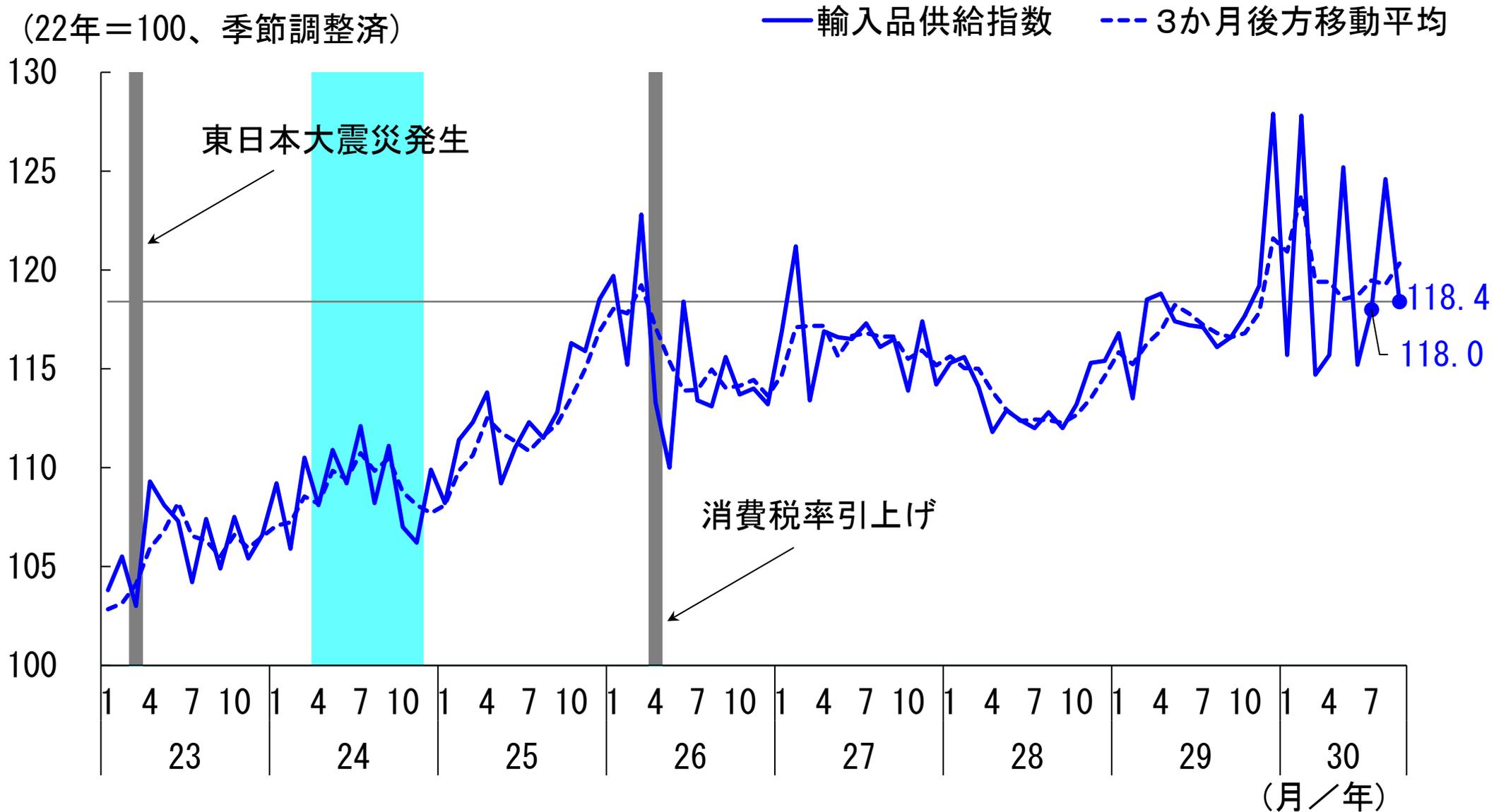
(22年=100、季節調整済)



(注) 紫色のシャドー部分は景気後退局面。

輸入品供給指数の動向

- 平成30年9月の輸入品供給指数は118.4(前月比-5.0%)と3か月ぶりの低下。
- 平成30年7月の118.0以来の指数水準。



(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

平成30年7-9月期の鉱工業出荷内訳表の状況

出荷・国内向け出荷・輸出向け出荷

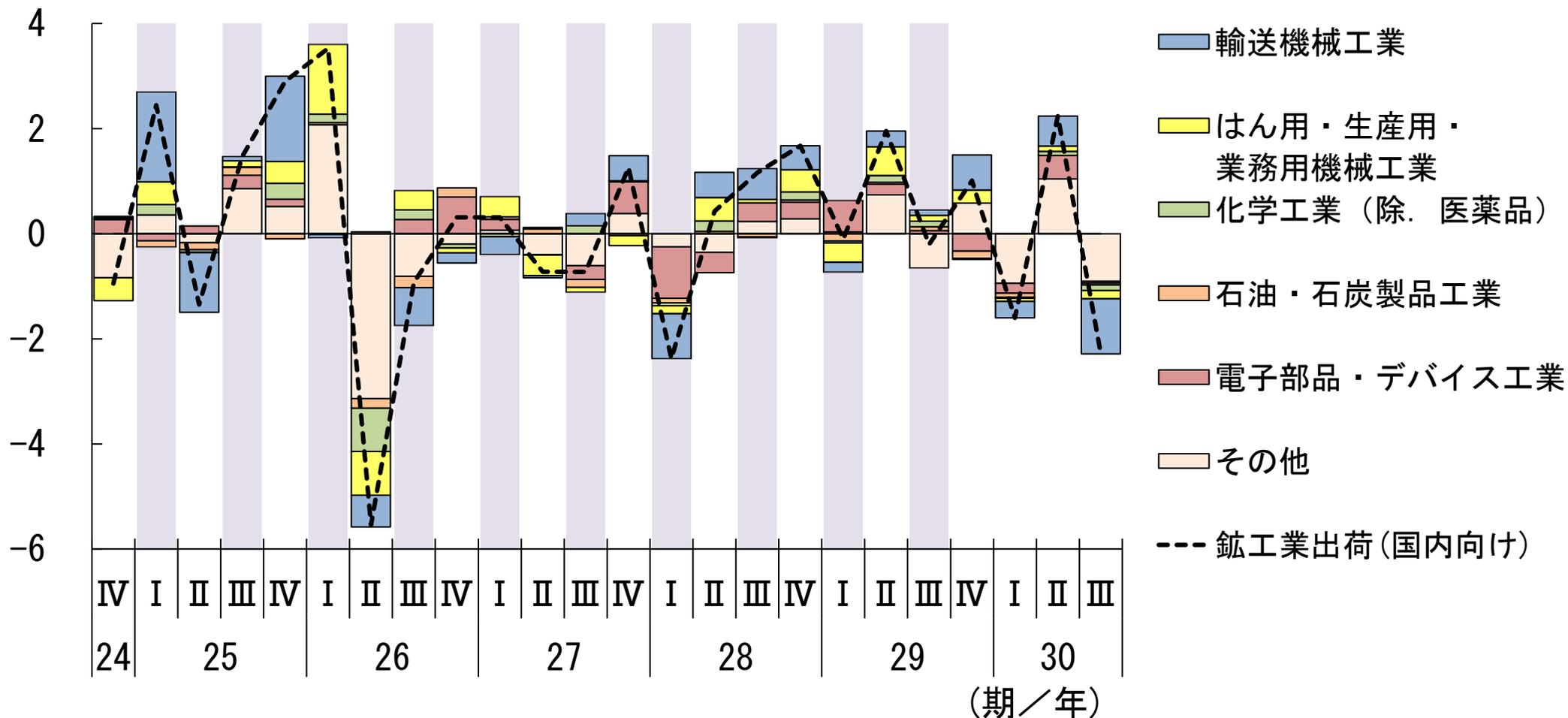
四半期	出 荷	輸 出	国 内
季調済指数 前期比	99.9 -2.2%	105.8 -2.7%	98.3 -2.3%
指数水準	H29 II 99.9以来 ①H21 I 80.7 ②H21 II 83.0 ③H21 III 88.2	H29 III 105.6以来 ①H21 I 69.0 ②H21 II 75.0 ③H21 III 82.0	H29 I 97.3以来 ①H21 I 83.4 ②H21 II 84.9 ③H23 II 89.3
前期比の動き	2期ぶりー (H30 I 以来)	5期ぶりー (H29 II 以来)	2期ぶりー (H30 I 以来)
前期比幅	H26 II -4.5%以来 ①H21 I -18.5% ②H20IV -9.5% ③H23 II -8.6%	H27 II -3.4%以来 ①H21 I -24.3% ②H20IV -15.1% ③H23 II -12.8%	H28 I -2.4%以来 ①H21 I -17.3% ②H20IV -8.4% ③H23 II -7.6%

(注) ①～③は22年基準における最小値から下位3位までの数値

国内向け出荷前期比 業種別の影響度合い

- 平成30年7-9月期の国内向け出荷を、主要業種別にみると、輸送機械工業などが低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(注) 主要業種とは、国内向け出荷(ウエイト8028.51)のうち、ウエイトが大きい5業種を選定。

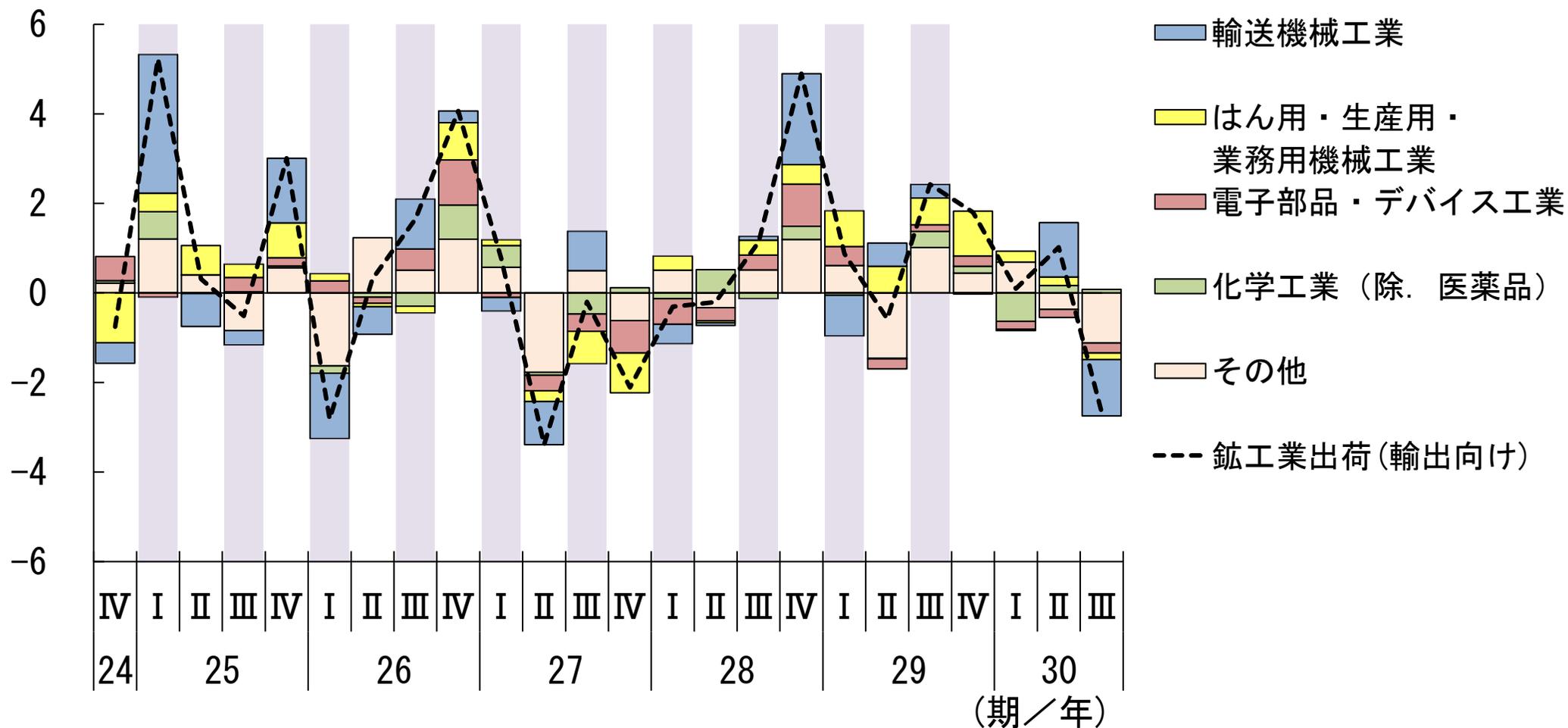
具体的には、輸送機械工業(国内向け、ウエイト1658.38)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同796.12)、化学工業(除. 医薬品)(同、同717.06)、石油・石炭製品工業(同、同574.89)、電子部品・デバイス工業(同、同457.59)。

(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

輸出向け出荷前期比 業種別の影響度合い

- 平成30年7-9月期の輸出向け出荷を、主要業種別にみると、化学工業（除. 医薬品）が上昇したものの、輸送機械工業などが低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(注) 主要業種とは、輸出向け出荷（ウエイト1971.49）のうち、ウエイトが大きい業種（上位4業種）を選定。

具体的には、輸送機械工業（輸出向け、ウエイト560.52）、はん用・生産用・業務用機械工業（同、同289.48）、電子部品・デバイス工業（同、同253.51）、化学工業（除. 医薬品）（同、同166.14）の4業種。

(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。